



木村匡伸 社長



アクアシステム(彦根市)は、総合ポンプメーカーとして現場の作業改善・効率化につながる製品開発に力を入れる。エア式ドラムポンプで培ってきた技術力を駆使して、高粘度液体に対応するエアアシシステムポンプ、エアモーター式工場扇などを発売、顧客から好評を得ている。今後は液面計、流量計、ノズル・吐出ガンなど周辺機器を組み合わせた液体制御システム開発を強化する。木村匡伸社長は「ポンプはニッチ市場だが、世界で通用する会社を目指す」と抱負を語る。

ポンプで現場作業を改善

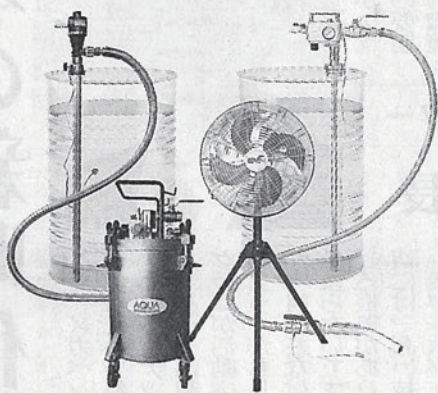
アクアシステム

液体制御システム開発も

アクアシステムは1957年の創業で、船舶用ウイंकポンプが祖業。化学工場などでオイル、溶剤などを小分けするドライポンプは電動式が主流だが、同社はエア式を採用して差別化を図った。エアポンプと一緒に事前テスト

用できるのが特徴。ポンプだけでなく、パール缶などを利したエア式バキュームクリナーも品揃えしている。

同社はノズル・吐出ガンなど周辺機器を自社開発・生産しているのが強みの一つ。「ポンプと一緒に事前テスト



するので初期不良が起こらない。古い技術のままのオートストップカーンノズルは改良を加えて適用できる液体の幅を広げた。液面計もIoT機能を付加したドラムポンプなどエア式で差別化を図っている

新製品を開発中。

また、中国、タイ、ベトナムに事業所があり、顧客ニーズを多角的に吸収している。「例えば中国は環境規制が厳しい。こうした動きを捉えて一歩進んだ製品開発につながる」。

作業現場に役立つ製品づくりを通して、国内外で存在感を高めた考え。「工業用品は高価格という先入観があるが、当社は良い製品をリーズナブルな価格で提供し、もっと幅広い分野で使ってもらいたい」。

このほど策定した2030年ビジョンでは「当社で働くことがステータスになる」ことを目標とし、自由闊達な企業風土づくりを進める。地元ラジオ局の支援など地域貢献も積極的に取り組む。